當光寺々報・第二十一号

発行日
H16 11/3

「お斎（とき）」について

當光寺坊守　渡邉　久美子

お釈迦さまの時代、食事は正午以前に摂りその食事を「お斎」と呼んでいました。日本では佛事の時に出す食事の事を指します。

當光寺でも報恩講・永代経法要の時に「お斎」を出しています。私の記憶では戦前は黒塗の漆器を使って出していました。戦中は食糧難で中止しなければなりませんでしたが、戦後再開した時は男性のご門徒が一人で「バラ寿司」を作って下さいました。

その後、寺の者とお手伝いさんで用意しておりましたが、佛教婦人会が設立してからは会員の皆様方が手伝って下さっております。

報恩講でお逮夜を始めた時には夜の「お斎」も必要になり、婦人会の石川さんが「坊守さん大変でしょう」と夜の分のお菜を作って来て下さいました。本当に助かりました。

今では、婦人会の方が前日から準備をし接待・後片付けをして下さり、浄土真宗寺院本来の姿、皆さんの寺と言う意識が根づいていると思います。

庫裏の改築が目の前にせまり、ご門徒のコミュニケーションの場である「お斎」をどのように運営するかによって、厨房の位置づけも大きく変ると思います。

皆様と一緒に良い案を出していきたいと思いますので、いろいろとご意見をお聞かせ下さい。

異文化交流の場で
見たこと・考えたこと

佐久間　直子

自分とは異なる文化環境を持つ人々と共に暮すことは、楽しい経験ではあるが、一方で様々な問題も引き起こす。又、異文化やその人々について新しい知識を得ることができるのは当然として、時には、自分自身を見直す契機にもなる。

三十年ほど前、私はイギリスで留学生活を送った。宿舎の住人はアジア・アフリカからの留学生がほとんどで、個室の他は、台所やバス・トイレは共有という施設であった。週末や週日の夕方以降は、台所が小さな国際交流の場になる。調理をしながら、出身地や自分について情報交換をする。作っている料理そのものがお国ぶりを表わす。私は牛肉も豚肉も食べるが、宗教上の禁により触れることもしない人々もいる。冷蔵庫は二人で一台を分けて使うのだが、厳格な人だと中に入れる食品や収納の仕方についても注文をつけることもある。

イスラム圏の人々の信仰の態度には、特に強い印象を受けた。隣室のマレーシア人夫婦は、長期の断食を正確に実行していた。断食月の終り近くには、奥さんの顔色は悪くなって疲れている様子だ。遠い外国で誰も見ていないのだから手抜きしたっていいのに、と思うほどだった。その奥さんが、若いのに信仰が篤いとほめたのがイラク人の青年である。彼は毎日

定められた礼拝を欠かさなかった。早朝の礼拝は自室で行うので、聖地の方向にある隣室の住人は眠りを妨げられるとぼやいていた。イラク人青年は普段でも声が大きいことで知られていたのだ。しかし、宗教の違いから争いになることはない。宗教に関する部分では、皆が互いを尊重するのが礼儀である。イギリスのマナーでは、宗教は食卓の、つまり社交上の話題にはふさわしくないとされる。おそらく、これはどの国どの地域でも同じではないだろうか。個人の存在と深く関る問題は、話題として天気や趣味とは同列には扱えない。宗教とは、異文化理解に当たって、最も慎重な配慮が必要な対象だと思う。

宗教的背景の異なる人々と過ごしているうちに、私は自分自身のことを考えるようになった。「自分の家の宗教は仏教だが、私自身は仏教徒と言えるのだろうか。英文学の知識はあっても仏教についてはほとんど知らないし、毎日祈ったりもしない。それでも、私が当たり前だと思っている事が、もしかしたら仏教に根ざしたものであるかもしれない」東南アジア・アラブ・アフリカの人々と一緒に暮し、彼らの生き方考え方に、それぞれの宗教が大きな影響を与えているのを見て、私はそんな事を考えるようになった。異文化の人々との交流は、自分自身について考える最良の機会を与えてくれたのだった。

壮年会本称寺参拝・懇親旅行

山本　勇介

夏も終わる八月二十八日～二十九日に壮年会で浜松団参へ行って来ました。

晴天に恵まれた一行は、東京から以前に登った富士山を横目に新幹線で浜松へ。副住職さんのお姉さんが嫁がれたご縁で、本称寺さんにお参りさせて頂きました。本堂内に土間があり一段あがった所に畳が広がる構造に一同「へえ～」っという声が・・・。『讃仏偈』お勤めをさせていただき、つかの間の談笑を過ごしたのち浜松から東海道線で金谷へ。

ここで大井川鉄道に乗換え。現役を退いたSLや電車を集めた鉄道ファン垂涎の地。ローカル線に揺られながら千頭へと向かいました。

今回のお宿は寸又峡の求夢荘という旅館です。夕食の時、一人の鉄道少年の家族と知り合いなり電車の話で盛り上がりました。日頃

の行いが悪いのか夜が空けると外は雨でした。

宿をあとにした一行は終点の井川ダムを目指します。途中アプトいちしろ駅では日本で唯一のアプト式機関車の連結を見ることができるとあって列車が停まる前に飛び降りてしまう人もいて車掌さんに注意される一幕も。

井川からはダム湖の渡し船で井川本村へ。時代に取り残されたような町並みに心を癒され、お腹もすいたので食堂を探すも定休日。急いで戻りそばをかき込み込み、電車に乗り込み少年達と再会をはたし、千頭まで戻るとお待ち兼ねのSL特急に乗継ぎ。真っ黒い車体から白い煙を吐き出す機関車が僕等を待っていました。山あいに響く汽笛の音に胸が踊ります。一同童心に帰ったように写真を撮ったり風景を楽しんだりしました。和気あいあいと懇親を深められた二日間でした。

これからも、壮年会の楽しい企画を立ててください。ありがとうございました。

法話

他力の念佛とは

當光寺住職　渡邉　普相

本願寺カレンダーの今年九月のことば「自力の念佛、そのまんま他力とわかる時がくる」（木村無相）味い深いことばですが、よく意味がわからない方もあると思います。自力の念佛とはなにか、他力の念佛とは何か？・・・

中国の曇鸞大師によって、佛教に「自力あり、他力あり」と分類されてから、特に浄土教においては「他力」という味いが教えの中心になっているのです。

私たちが、ナモアミダブツ・ナモアミダブツと口に称える念佛は、自分の心がはたらいて称えようと思い、口に声となってあらわれて、手には念珠をかけて如来様を拝むのです。身口意の三業とも自分の意志で行うものです。

社会では「他力本願」とは、自らは何もしないで、他の力によって事を成しとげようとすることだと誤解をしている人が多いのですが、すべて自分の意志で行わないと事は成就するものではありません。ところでこの自分意志によって行われていることを自力の念佛といっているのではありません。自分で称えている念佛に価値を認めようとする考えを「自力の念佛」というのです。至心は（心をただして）一声でも数多く念佛申すことによって阿彌陀如来さまの浄土に往生し佛になろうとすることをいったものです。

宗祖親鸞聖人は九才で得度され、比叡山に登られ二十九才まで自力の

修行をお積みになりましたが、悟りが開けず、ある人のご縁で法然上人の門下にお入りになり、念佛のみ教えに遇われたのであります。

しかし時を経るにしたがって、心をただし、一度でも多く念佛を申すことの難しさに気づかれ、究極は、自分が申す念佛は、阿彌陀如来さまの本願力が廻向（めぐりむけられること）されることによって申させていただいているのだと受け取られたのであります。

結局、法然上人のお示し下さった念佛のみ教えが大きく二つに分かれていったのであり。一つは自分の申す念佛に価値を認めようとする浄土宗と、もう一つは申す念佛は阿彌陀如来の願いがはたらいて申す念佛であると受け取った浄土真宗であります。「自力の念佛」では内面に不安感が残ります。心をただしたつもりであるが、本当によいのか、数多く念佛申したつもりであるけれどもこれでよいのか・・・と思う心の状態です。自力の念佛は臨終に至るまで、数多く称えなければならないと云われますが、私も幼い頃から多くの身内の者の臨終に会いましたが、最後までお念仏申せた人に一人も会っておりません。

親鸞聖人は「人間というものは、それぞれ業を背負っているので、どの様な最後を迎えるかわかりません。今が大事です。」と申されております。他力の念佛は一回でもよし、生涯続くお念佛もよし、今ここで阿彌陀如来さまのお慈悲に抱かれていることを悦びながらナモアミダブツ・ナモアミダブツと申させていただくのであります。

當光寺行事予定

修正会（元旦会）
一月一日午前六時半より

御正忌報恩講・新年会
一月十六日（日）
午前十一時より

春彼岸法要
三月二十日午後一時より

月例法座
・毎月二十四日午後一時半より

日曜礼拝
毎週日曜及び祝日
午前七時半より

芝組佛婦連盟報恩講並びに研修会

當光寺近在の浄土真宗本願寺派の寺院の集まり「芝組」の佛教婦人会連盟の報恩講が左記の通り行われます。婦人会の皆さま方は奮ってご参加ください。

日時・十二月三日（金）午前十時半
場所・光明寺（港区神谷町）

壮年会年末懇親会のご案内

恒例の年末懇親会を左記の通り催します。どなたでも参加できます！奮ってご参加下さい。

十二月二十五日（土）
午後4時～　壮年会例会（勤行・法話）　當光寺本堂にて
午後6時～　年末懇親会　六本木『CABAN　CLUB』にて